

第7回 矢上川地下調節池施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和7年9月22日（月）14：00～16：00

2. 出席者

砂金伸治委員長、岩波基委員、真下英人委員

3. 議事概要

- 事務局より「矢上川地下調節池施工技術検討会規約の改正」、「これまでの検討状況と今後の進め方」、「安全・安心な施工に関する取組」について説明した。
- 各説明後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
 - ・塑性流動性の確保は非常に重要であるため、本掘進では切羽圧力に加えて土水圧の圧力勾配等の結果も整理するとよい。
 - ・曲線区間での摩擦抵抗を推定するため、初期掘進時における推進力から切羽圧力を引いた概ねの摩擦抵抗を確認しておくとよい。
 - ・シールドマシンの挙動の傾向を把握するため、中心線からジャッキまでの距離を掛けてモーメントで示して影響を確認した方がよい。
 - ・応力解放率は切羽圧力も影響するため、近接構造物への影響解析を行った断面についても、今回計測により得られた補正係数を使用して求まる応力解放率は、切羽圧力の一番低い値に対しても解析で用いた値を下回っていることを確認した方がよい。
 - ・騒音・振動については、工事説明会で計測結果を示す等、地域住民の理解が得られるよう工夫を行うとよい。
 - ・P C鋼より線緊張時の軸力とひずみ発生のメカニズムは必ずしも明確でないが、安全性確認のため、数値解析等での検討を含めて、導入緊張力を検証しながら進めるとよい。
 - ・凍結工法では温度分布を把握することが重要であるため、地中の温度分布が分かるように水平ボーリングにより計測するとよい。
 - ・砂置換は深さ30m以上あるため、コンクリートの外側に砂杭をうまく配置できるよう留意して施工するとよい。